

スイスのローカル線を訪ねて-2005-

高島 伸幸

まえがき

なんと10月から仕事が本社勤務になってしまいました。今までは平日のオフシーズンにヨーロッパへ出かけていたのですが、そうもいかなくなりました。

しかし、GW直前に上司が「俺は2日休むからお前6日休んでもいいよ」と言うてくれるのではないですか。そうすると、3日～8日まで6連休です。これを逃す訳がありません。

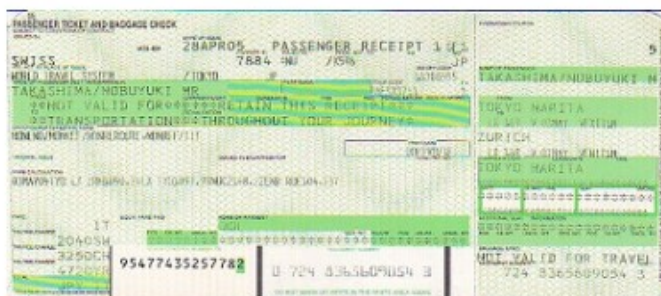
妻にそのことを話すと「私は6日は休めませんからどうぞいってらっしゃい」とのこと。

早速航空券の手配です。しかし旅行会社に行くと、当然このピーク時に空席なんてあるはずがありません。家に帰り、試しにインターネットで調べてみます。空席がすぐ検索できる業者があり、いろいろな区間で調べているとありました。スイスエアーのチューリッヒ単純往復。それも12万円位です。

そんな訳でさっそく予約すると、指定の銀行口座に振り込み、航空券は当日成田のカウンターで受け取ってくれとのこと。ちょっと怪しいですが、仕方がありません。お金を振り込むとメールで確認書が送られて来ました。

次にホテルです。これもインターネットで検索すると、クレジットカードの番号を教えなければいけません。現地の料金で即時予約ができるサイトを見つけました。現地料金ですので安い上、手数料も無くキャンセルや変更も可能です。とりあえず、2泊分押さえました。

航空券控え



あとは現地での行程は行き当たりばったりなので必須のスイスパスの手配です。4月中に発券すれば若干安い4月の料金なので、即日発券なのを確認してからお願いすると、先日飛行機の空席を調べてもらった方で、「航空券取れたのですか？」と言われました。

2005年5月3日(月)晴

北本を朝1番の高崎線で出発する。上野からは空いていればスカイライナーと思ったのですが、当然満席。次の6:45発の特急に乗車します。上野発車時点では空いていたのですが、日暮里で座席は埋まり立ち客がでました。青戸からも乗ってきます。

津田沼から先は通勤ラッシュ並みの混雑に。それにみんなスーツケースを抱えてます。成田空港第2ビルには7時前に到着しました。さっそく団体カウンターで確認書を見せて航空券を受け取ると、チェックインへ。さすがに今日は長蛇の列です。

希望通り通路側の座席を取ることができました。空港内のお店でカメラの電池と必要なガイドブックや本を買って出国審査へ行くと、ここも長蛇の列でさすがGWである。

搭乗口はシャトルトレインに乗った先にあります。搭乗時刻が近づくと機内へ。LX169便は定刻の10:10に出発した。

機材はA340-300で、小さい機材なので2-4-2の座席配置です。座席には液晶テレビが付いていて、ビデオや音楽にゲー

スイスパス



ムなどが楽しめるようになっていて、機内では退屈することがありません。離陸してしばらくすると飲み物が配られます。スイスのビールを注文すると、青い缶のアップンツェルビールが出てきたのに感激しました。

続いて食事が配られます。隣のおばさんから、「このエアラインは食事がまずいのよ。」と一言が。確かにおいしくない。これをきっかけに「どこに行くの」から始まり、この航空券の買い方が話題となりました。直前に買ったのに安かったと話をすると、おばさんは直前ではないものの、10万円を少し切る金額だったとのこと。

もう一度食事をして、チューリッヒに20分早着の15:35に着いた。長距離線はちょっと離れたターミナルに着いて、シャトルトレインで本館へ。見た目は新交通システムのようなのですが、路面にワイヤーが走っていて、これが動いて走る。まるで横に動くエレベーターのようです。入国審査を通り、パスポートにスタンプを押してもらって入国しました。

まず、空港駅でスイスパスへバリデートをしてもいます。今日の宿泊はローザンヌなので16:13発のIC730に乗り込みます。2階建て客車がきたので眺めのいい2階へ座ります。いったん中央駅に寄って進行方向が変わって乗客も入れ替わり、バーデン、アーラウと快走します。オルテンを通過すると高速新線に入り、山の中をトンネルを繰り返しながら疾走します。カーブが少なく、あっという間にベルンに到着しました。

ホーム反対に停車していたイタリア方面の列車と相互接続を取って、ローザンヌへ。こ



IC730 ローザンヌにて

こからは在来線で、カーブをこまめに繰り返しながらゆったり走ってゆきます。

途中フリブルに停車し、トンネルを抜け、下り勾配に入ると左手にレマン湖が広がりました。今まで雨が降っていたのに日差しが見えてきて、気分は上々。勾配を下りきるとローザンヌで、18:40に到着しました。

晴れてきたので、まずメトロと呼んでいるラック式鉄道（LO 標準軌直流650V）で湖岸の駅ウーシーへ下ります。スイスパスなら市内交通機関もフリーパスです。駅を出ると港になっていて、向こう岸となるフランス側の山並みがきれいに見えます。少し散策をしてホテルへ戻る際はトロリーバスを利用して急坂を登って行きます。

ホテル近くのバス停で降りて、予約していたホテルへ。道路工事をしていてちょっと入り口が大回りをしなければいけなかったけれど、確認書を見せて無事に HOTEL CRYSTAL にチェックイン。朝食付き123CFでした。規模は小さいけれどきれいなホテルで、ちゃんと予約した内容がFAXで届いていました。

2005年5月4日(火)晴

朝食を食べてホテルを出ます。まず、メトロと呼ばれるラックレール登山電車のフロン駅へ。ローザンヌ駅にはこれで一駅下ります。この1区間の乗客は多く、ウーシーまで行く路線のほかに、ローザンヌーフロン間の区間運転の単行電車が単線であり、この区間は単線並列になっています。

(現在は新システムに変わったようです。)



IR1417 Aigleにて

Gare CFF (ローザンヌ駅前) で下車して、7:46発のIR1417でスイス田舎電車の聖地Aigleへ。しばらく右側にレマン湖を見ながら列車は快走します。一応ヴェヴェィやモントルーへの通勤通学時間帯なので列車は混雑しています。しかし、それは座席が埋まる程度で、モントルーを出ると車内は閑散としてしまいます。Aigleに8:17に到着しました。

相変わらず、駅前広場には3社の電車が仲良く客待ちをしています。以前来た時乗っていない駅前が一番奥のホームから発車します。8:22発のAOMCに乗車。軌間1000mm直流850Vでつりかけ車ではありませんでしたが、新型の低床LRTではなかったのによしとします。

発車すると、まず道路端の併用軌道に出ます。すぐにASDと平面交差します。どうしてこのような配線になっているのかは謎です。

すぐに街を出ると立派な車庫のある駅で交換待ち。相手はつり掛け車でしたが、途中駅までの区間運転でした。

目的地とは逆の方向へ進んで、丘を上るとOllonの村へ到着。丘を下りて国鉄本線をオーバークロスして、川を渡ってモンティの街中へ入ります。

もう一度国鉄ローカル線を乗り越えると併用軌道に入り、ショッピングセンターの前の停留所で右から山を下りてきた路線と合流する。Sカーブを描いて裏通りの道路端を走ると行き止まりのMonthey Villeに到着します。

折り返して先ほどのショッピングセンターの手前で分岐して、ラックレールを噛んで山へよじ登ってゆきます。みるみるうちに高度を上げると、眼下にはモンティの町を見下ろ



Aigle駅前にて

して、遠く国鉄の本線まで見渡せます。

上りきると谷間に入ってゆき、放牧の牛を見ながら小さな集落があり、小駅に停車を繰り返しながら谷筋を遡ってゆきます。一大スノーリゾートが見えてくると終点は近い。

ひとつ手前の村の中心最寄の駅はホームが長大で何組もの続行列車が到着できるようになっていました。そして、ロープウェイ乗り場が見えるとそこが終点Champeryでした。

来た道に戻り10:12にMonthey Villeへ戻り、20分あとの区間運転に乗り換えることとします。予想のとおり、10:33発の区間運転は吊り掛けの在来車でした。(102)

運転台のハンドルを回すとノッチが上がります。反対に回すと電気ブレーキとなり、ハンドルの下のレバーを引くと空気ブレーキです。モーター音も高らかに直線を高速で突っ走り、丘を越えるとAigleへ4分早着の10:50に戻りました。

10:55発の向かいに停まっているALの電車に乗り換えます。(302)AOMCとは反対の方向へ走り出します。(軌間1000mm直流1500V) 駅前通りは狭く、車さえ行き違いが難渋するのに電車が通るときは大変です。とうとうホテルの前では駐車しているトラックと行き違いができず、しばらく停車しました。

市外を出ると車庫があります。そこに突っ込みしばらく停車すると、反対に走り出しスイッチバックと気づきました。ちゃんと電動車が麓側になっています。そしてラックレールを噛んで、ものすごい勾配で山をよじ登ってゆきます。

眼下のASDは粘着運転なのでΩループで



Champeryにて

勾配を克服しているのが模型のように眺められます。だんだん森林の中に入り、途中の信号所で新型の対向列車と交換します。ポイントは手動らしく、先に到着した列車の車掌が切り替えていました。山の上のリゾート村に到着すると、それぞれ目的の駅で降りてゆきます。しかし強烈な勾配はそのままです。

村の中心部らしいトンネル入り口の駅に停まり、残った人も全員降りてゆきます。ロープウェイも乗り換えのようです。しばらく停まったので、ここが終点かなと腰を上げたところ、ドアが閉まって発車してトンネルに入ってゆきます。トンネルの中も急勾配、そして急カーブです。

出たところは森の中。そして線路は終わっていて、古い駅舎が残る11:35に終点のLeysih-Grand-Hotel到着しました。しかし、グランドホテルらしいものはなく、なにか学校の研修施設がありましたが、ここは裏側のように人の気配がしません。乗務員が駅舎の中へ入ると静けさが広がりました。

当然この駅から乗車する乗客はなく、乗務員が駅舎から出てきて乗り込むと11:52に発車しました。今度は急勾配を下ってゆきます。村の中心部の駅からお客を集めてゆき、村はずれの駅では車掌が駆け込み乗車の客に切符の所持を確認し、無札がわかると駅舎で切符を買うように指示します。その間列車は停まったままです。

そこを出ると森林に入り、信号所で対向列車と交換して山を降ります。車庫で乗務員が交代し、乗務が終わった乗務員は2人すぐに車に乗り、何処かへ帰ってゆきました。11:35



にAigleへ戻りました。

12:51発のIR1725でMartigny・Sionを通りBrigへ14:01に到着。イタリア方面行きの列車は2時間おきで、すぐに接続がないため構内のビュッフェでランチとします。駅前広場には氷河急行も発着する私鉄のホームがあり、飽きません。

15:20発のEC133でシンプロントンネルをくぐり、イタリアへ。国境審査が行われましたが、ドモドッソーラまで管理上はスイス国鉄なのでスイスパスが有効です。

Domodossolaに15:50に到着すると、ホーム前寄り先端の階段を降りたSSIFの乗り場へ急ぎます。(軌間1000mm直流1350V) 薄暗い乗り場には最新の低床車ではなく、在来の連接車が客車を連結して停まっていた。

到着列車を待つて16:05に発車しようとしたのですがノッチを入れても電車は動きません。どうもブレーキが緩解しないようです。まさか手ブレーキをかけたままになっているのではないだろうなと思っていましたが、係員がハンドブレーキを回すと動き出しました。

10分の遅れで発車しました。駅を出るとトンネルを出てしばらくは平坦地を走ります。木製のワゴンを押した車内販売が来ましたが、車内はなんと満席で身動きも取れません。右手に山裾を下ってくる線路が近づいてきます。こんな支線はなかったはずと思っていると駅があり、180°ターンしてその坂を登り始めました。もう一度ターンして眼下には今走ってきた線路が見渡せます。その後はカーブを繰り返し、谷をさかのぼってゆきます。

再びイタリアからスイスへ国境を越えます。

深い谷の鉄橋が国境になっていて、遅れているのにその岸のたもとの無人駅に停車して全員が終わるまで国境審査が行われます。なお、1人降車させられました。

ここからは、スイス側のFARTとなります。国ごとに会社は分かれています、それぞれ同型の車両が相互乗り入れをしているのです。所属は前面に掲出している国旗で判断します。今度は坂を転がり降りてゆき、ロカルノの市街地は地下線へ入ります。そのままの遅れを持ち越し、Locarnoには10分遅れの17:57に到着しました。なんと接続予定だった列車はすでに発車してしまっていたのです。

いろいろ検討した結果、次の列車は普通列車の乗り継ぎで、18:23発の普通列車に乗車します。湖岸を進む単線の路線で、途中駅の交換で遅れが出てしまい本線との分岐駅Giubiascoには3分遅れの18:46に到着しました。本線が3分遅れているようで、乗り継ぎの普通列車も3分遅れで到着し、18:55に発車しました。

Locarnoへの路線を眼下にこちらの本線は斜面をぐんぐん登ってゆきます。峠を越えてLuganoへ下りこみます。これまた、眼下に湖が広がり景色のいい街です。ホームの真ん中に穴があいていて、シルバーのケーブルカーが顔を出しました。線路工事をしていて、対向列車を待ってから発車します。複線区間なのに単線で走ります。

湖を横断してまた山越え。貨物ヤードが広がるとそこがイタリアとの国境駅Chiassoでした。19:56に到着すると、接続の20:03発イタリア・ミラノへの普通列車は地下道をくぐり駅舎側のホームから発車する。指示に従い無



人の国境審査を抜けると柵で仕切られた待合室へと出ました。しかし、切符売り場がありません。なぜか駅員ではなく、国境審査官が発車時刻数分前に柵を開けてホームに誘導します。「切符はどこで買うのか？」と尋ねると、「Go Train」とのこと。

ホームにはイタリア国鉄の2階建て客車が停まっていた。時間になるとすべるように発車。たくさんのポイントを渡り、国境となる長いトンネルへ入ります。当然車掌は回ってこないまま一駅のComo San Giovanniに20:10到着しました。

駅前には街はずれなのか静かで、事前に調べた地図を頼りにホテルへ向かいます。手持ちのユーロが無いので、途中の銀行のATMでユーロを下ろします。予約したHotel ENGADIN Aは歩いて10分くらいで、すぐに見つかりました。フロントでチェックインすると待っていたよと大げさなジェスチャーで迎えてくれました。到着が遅かったので心配していたでしょう。シャワー・朝食付き63ユーロでした。

予定ではICの食堂車で食事をする予定だったので、まだ何も食べていません。いったん部屋に荷物を置いてから食事に出かけることとします。

町の中心は、私鉄である北ミラノ鉄道の北コモ湖畔駅の回りがあるので、湖岸を通り中心部へ。まず駅で明日の予定を立てるため、発車時刻表と留置車両の確認をします。ちょうどミラノからの到着列車があり、パンタを降ろし室内灯を消していました。

外部塗色こそ現在の色になっていますが、外板のリベットからこの編成がお目当ての戦



前製のオールドタイマーでした。明日、このホームからの1番電車がこの編成であることは間違いなく、時刻表を確認すると明朝6:46発の準急列車に充当されるようです。朝食前にミラノまで1往復することにしよう。

湖畔のレストランをのぞいていると1軒のレストランの前で老紳士のウェイターが客引きをしています。きちんとメニューを示して案内するのでここに決めることにしました。

席につき飲み物を注文。イタメシ屋なので（ここはイタリアなので当然か）パスタとピザがお勧めらしい。こうこうと赤く燃える釜のピザもうまそうだったのですが、ペスカトーレのパスタに決定。野菜不足なのでサラダを付けておきます。

料理が出てくるまでグリッシーニをつまみに飲み物をいただきます。サラダが出てきましたが、なにも掛かっていません。素サラダです。ふとテーブルを見るとオリーブオイルとピネガーに塩こしょうが置いてあります。そうかこれを掛けろということです。パスタはおいしくいただきました。明日は早いので食事を済ませたら早くホテルに戻って寝ることにしました。

2005年5月5日(木)晴

6時に起床して荷物を置いたまま、身支度を整えてホテルを出ます。朝の通勤時間帯で大きな荷物を持って行けないし、また朝食を食べにホテルへ戻ってくるからです。

朝のコモ湖畔を通り、昨日下調べをした北ミラノ鉄道のComo N.Lago駅へ向かいます。予



北ミラノ鉄道 Como N.Lago駅にて



Chiassoにて イタリアの普通列車

想通り6:46発の準急列車がお目当ての1928年製オールドタイマーの入った編成です。なんと77年間も走ってます。写真を撮っていると「No Foto」と注意されます。イタリアでは本当は鉄道を撮影してはいけないのです。(EB74 0-02)

切符売り場でミラノまで買うと3.40ユーロと大変安い。お目当ての車両に乗り込むと、ブレーキが緩み静かに発車しました。車内は8人と6人のボックスシートで、片側に運転台があります。駅を出ると道路の中央分離帯をゆっくり進みます。なんか併用軌道のようなのです。次の駅の構内に入ると専用軌道に戻りました。斜めから朝日が差し込んできます。

線路は単線で、街を出るとイタリア鉄道を乗り越すため、吊り掛けモーターを唸らせて勾配を上げてゆく。準急ですが各駅に停車し、途中の駅からはどんどん通勤通学客が乗り込んできます。その中でも学生が多くて、なんとこの編成は8両もつないでいます。途中駅のホームはなぜか途中に踏切があり、道路をまたがってホームが作られています。とうとう通路まで立ち客が増えてきました。雰囲気は東武東上線のようなのです。

各地からの3線が合流するSaronnoからは複々線となり、吊り掛けモーター音も高らかに急行線を疾走します。いつの間にか地下に入り、中心部の数駅に停車して、乗客を降ろしてゆきます。地下を出て掘割を進むと頭端式のMilano Cadornaに7:50到着しました。約1時間と、通勤路線としてはちょうどよい距離ではないでしょうか。到着したらすぐに4両ずつに分割されて、片方は回送されてゆきました。

向かいのホームにはなんとComo行きの旧型車が4両で停まっています。さっそく切符売り場に急ぎComoまで買ってホームに戻ります。

9:00に発車。私のミラノ滞在はなんと10分でした。さすがに観光地への列車なので日本人観光客のグループが乗っています。帰りは急行で、両端に出入り口のあるクロスシートの車両で、こちらは1953年製で少し新しいですが、それにしても52年は走っています。(EB 740-16)

今回はたまたま旧型車に当たったようですが、1998年製の2階建ての客車や1982年製の車両も走っています。近く、マルペンサエクスプレスに新車が導入されるような噂があり、これらの旧型車の去就が注目されています。

行きに途中停車した地下駅からパラパラと乗車があり、立ち客は出ませんがほとほとどの乗客です。複々線の区間で検札が来ました。各地への3線が分岐するSaronnoを出ても主要駅のみに停車し、Como N.Lagoに8:50に到着しました。天気もよく、絶好の行楽日和です。

ホテルへ戻り朝食を食べると、ひと働きした後なのでおいしく感じました。朝食後チェックアウトしてComo San Givovarini 10:07発のIC258に乗車するため駅へ向かいます。とりあえず、国境駅のChiassoまで一駅分の乗車券を買わなければいけません。

切符売り場の列はそんなに長くないので安心して並んでいると、全然進まないのです。発車時間が迫り、自動販売機があったので、こちらにチャレンジすると発券のところでエラーになってしまいます。地元のおばさんも困っていました。そのうちに列車が到着した

急行コモ行き Milano Cadornaにて



ので仕方なく飛び乗りました。すぐに国境駅のChiassoに到着。国境審査後、乗車した車両は切り離されるといので前の車両に移りました。

来た道に戻って行きます。10:53にLugano到着。ここから出ているローカル私鉄FLPに乗るため下車します。表示に従い駅の外に出て道路を渡り階段を降りると狭軌1000mmの線路とホームがあり、地元客が列車を待っています。前面に顔が書いてあるオレンジと白のツートンカラーの列車が低床のトレーラーを挟んでやってきました。

11:10に発車。ワンマン運転でイタリアの方向に向かって発車すると右にカーブして国鉄線をトンネルでくぐり、森の中を小刻みにカーブを繰り返して進みます。駅間距離は短く、思い出したように停留所があり、数人が降りてゆきます。

山すそを回り込むように高度を下げてゆくと眼下に地方空港が現われます。今度は左に大きく180度カーブして回りこむと、空港の入り口らしい無人駅に到着しました。山に囲まれていて滑走路が短いので、あまり大きな飛行機は発着できないのではないのでしょうか。

この先は住宅の多い平坦地を走ります。途中駅舎のある有人駅で列車交換。ここに車庫がありました。窓を開けて撮影していると、地元の人がこっちの窓からのほうがよく撮れると手招きしてくれます。鉄道は撮ってはいけないのでは。

湖に沿って走ると終点のPonte Tresa に11:35に到着しました。こちらには留置線があり、数本の列車が昼寝をしています。駅前にはポ



ストバスも発着し、ちょっとした交通結節点になっています。でも、イタリアの国境がすぐ近くなのにそんな雰囲気はありません。言葉はそのままですし。

折り返し11:45発で来た道に戻ります。Luganoには12:05に到着。12:10発のCIS154はETR470 Cisalpino振り子電車でやってきます。乗り換え時間があまり無いので、間に合わなかったら、ケーブルカーに乗って市街に下りて、昼飯食べてからLuganoの街歩きでもしようかと思ったのですが、この区間の単線運転の影響で5分遅れてやってきましたので余裕で乗れました。

いい時間なので直接食堂車に乗車。前からの念願だったイタリアの食堂車でのイタ飯を食べることとします。さすが食堂車。昼飯からランチコースで、値段も一流なのでびっくり。しかし、それぞれのメインディッシュだけ頼むことができるようです。周りも、コースを頼んでいる人は見えませんでした。

ビールを頼むとサッカーボールの絵の付いた缶ビールが出てきました。料理が出てくるまでグリッシーネで間を持たせます。しかし料理が出てきません。列車はBellinzonaを出て山を登ってゆきます。まず、2重ループ。やっと料理が出てきました。まとめて料理を作っているらしく、同じものは全員同時に出てきます。短いパスタにトマトソースが掛かったものでした。そして、再び二重ループで高度を上げます。

Airoloを出るとゴッタルドトンネルに突入。トンネルを出るとGoschenenを通過して、こんどは下ります。大きなΩカーブで眼下に線路



CIS154 Luganoにて



が見えます。そしてループ線。しかし、この雄大な峠越えも新トンネルの開通で見れなくなってしまいかもしれません。新トンネルの出口付近では工事を行っていました。

コーヒーを飲む頃には湖畔を走るようになり、Arth-Goldauを出てZugに着く頃に座席に戻りました。振り子車両なので、車内は狭く、2等車は2列で日本の在来線特急のようです。

低い峠を越えてチューリッヒ湖が見えてくると急行線は地下線に入り、トンネルを出ると14:56 Zurich HBに到着しました。この先は予定を決めていませんが、とりあえずクールに行くことにします。

15:12発のEC7に乗車します。ドイツからのユーロシティで食堂車も連結していました。しかし客車はスイス持ちです。さっそく食堂車に乗車して、ミネラルウォーターを頼みます。座席車よりもゆったりしていて窓も大きいし、時間帯が悪いのでお客も少ないのでゆっくりできます。

市街地のトンネルを抜けるとチューリッヒ湖に沿って走ります。結構停車駅が多く、急行のようです。この区間を走る国内列車のICほとんど停車せず、一直線にクールへ向かいます。確かに停車駅が多いことは直通需要に答えていることになるのかなあ。

チューリッヒ湖が見えなくなり、Ziegelbrückeを過ぎるとこんどはWalen湖沿いに走ります。Sargansを出るとライン川の流域を進みます。温泉のあるBad Ragaz、ハイジの里Maienfeldを通り、LandquartでRhBと接続して別路線として併走します。あちらは私鉄らしくこまめに駅がありますが、こちらに途中駅はあり

ません。

Churに16:43に到着すると、駅は工事中で、まずは今日の宿を探すことにしました。観光案内所は閉まっています、ホテルガイドの冊子が置いてありました。事前に目星を付けておいたHotel Drei Konigeを当たると、シャワー付き87CHFで部屋を確保することができました。

駅に戻り、RhBとの併走区間を片付けるため往復しておくことにします。明日、Landquartから帰ってしまうと乗り残しになってしまうからです。17:52に発車する普通列車は4両編成の電車編成です。(514)とはいっても中間の2両は客車なのですが。帰宅客でそこそこに込んでいます。こまめに駅に停まり、Landquartに18:14に到着しました。

帰りは18:19発の急行を利用しました。EL牽引の客車列車で、中央に出入り口のある未更新の白熱灯車がつながっていたのでそれに乗り込みます。(2323)停車駅が少なく飛ばしますが、標準軌の国鉄線には勝てず、途中で追い抜かれました。ちなみにこちらは単線です。

Churに18:39に戻りました。ホテルのレストランで食事をして今日は休むこととしました。

2005年5月6日(金)雨

朝食を食べてホテルをチェックアウトします。今日はまず、RhBの支線であるArosa線を片付けることとします。のりばはなんと駅前の路上にあり、電気機関車が4両の客車を牽引して停車していました。まばらな乗客を乗せて8:08に発車します。(2312)

雨の中クールの街中をゴロゴロと進みます。



アローサ線は駅前に発着、Churにて



街中の停留所で乗客を乗せて発電所の前からいきなり山の中へ入ります。ぐんぐん高度を稼いでゆき、左は山、右は谷です。しばらく走ると信号所のような小駅で列車交換。放牧地が広がってくると人家も増えてきます。

Langwiesに近づくとこの路線の目玉である大橋梁が見えてきます。このときは工事中で、足場が覆っていましたが、以前何かのテレビで見たことがあり、どこの路線かわからなかったのです。右にカーブして橋を渡ると青々とした牧草地の中の小駅に停車します。するとSカーブを下ってくる列車と交換しました。

再び森の中へ入り、ぐんと勾配がきつくなりました。窓の外には白いものが舞っています。そうです雪です。突然視界が開けて街が広がると9:09に終点Arosaに到着です。(標高1739m)

駅前には小さな湖がありますが、霧と雪で視界がききません。それに寒い。ここはウィンターリゾートでこの時期はオフシーズンなのかお客もまばらでホテルも休業中が多かったです。折り返しの間は、駅前の郵便局で手紙書きです。ついでに切手を買って投函しました。ボールペンのインクがなくなったので、売店で求めるとなんとインクは青色。でもこちらではそれが普通なのです。

折り返しの列車は9:48に発車しました。(2312)外は雪でも客車の中は暖房が入り、暖かい。途中ですれ違った青色の編成は「アローサエクスプレス」とロゴが入っていて、車内がサロンカー風になっていました。でも普通列車です。

Churに10:52に戻りました。こんどはダボス

へ向かうため、10:58発のサンモリッツ行きの急行に乗車します。Reichenau-Taminsまではライン川に沿って走り、ここから山へ分け入ってゆきます。

車内販売からコーヒーを求めて、車窓を楽しみます。だんだん溪谷が深くなり、あのランドバッサ橋を渡って12:02Filisurに到着しました。12:04発のダボス行きはホーム反対側に停車しています。(1723)

コンパクトなE L+ロ+ハ+クハニの編成です。乗り継ぎ客を乗せてダボスへの支線は後戻りするように発車します。小ランドバッサ橋を渡り、溪谷沿いへ分け入ってゆきます。

その中の小駅に停車して、ハイカーと家族連れを降ろします。駅を出ると長いトンネルに入り、それを抜けると谷が緩やかになってダボスなんたらと言う駅が続くようになりました。12:27にDavos Platz到着です。

ここも、ウインターリゾート地で、駅前からスキーのリフトが伸びています。そしてあのダボス会議も行われる地です。雪もちらつき寒いので、接続の列車まで30分ほどあるので駅前の生協で暇つぶしをします。セルフサービスレストランの料理がうまそうでしたが、時間が無いので仕方なく駅へ戻ります。

13:02に発車。(2496)こちらはクールへ直通するので、客車も編成も少し立派です。Davos Dorfで乗客を増やすと左手の大きな湖を迂回するように走り、そのままSカーブで下りこんでゆきます。右下にKlostersの街を見下ろし、ヘアピンカーブを繰り返して谷へ降りてゆきました。

エンガディンからの新しいトンネルを抜け



る路線と合流し、Klostersに到着しました。雪は雨に変わり、新しいトンネルを抜けてくる列車と接続を取って発車します。引き続き、谷を下ります。谷が広がった平坦の直線区間で線路が複線になっていて、ここで対向列車とすれ違いました。国鉄線に接続するLandquartに5分遅れの14:17に到着です。

駅の売店兼軽食スタンドでフランスパンをくり抜いてソーセージを通したホットドックとビールを買い求めるとチューリッヒ行きのICを見送って、14:33発のRE3832に乗り込みます。来た道に戻るのはつまらないので、ボーデン湖畔回りを選択しました。Srgansからライン川沿いの路線に入ります。対岸はリヒテンシュタインです。Srgansの配線は面白く、直通列車のためのループ線がありました。

Buchsでオーストリア・ウィーン方面の路線と分岐してSt.Margrethenでリンダウ方面からの路線と合流し、ボーデン湖畔へ出てきました。この辺は以前ローカル私鉄を回ってうろうろしたことがある地域です。

Rorschachで湖畔に行く路線を分けて丘陵を越えます。この列車の終着St.Gallenに15:56に到着しました。ちょっと駅前の私鉄を冷やかすと、当時の在来車の他に低床の車両も導入されています。しかし、駅前をゴロゴロと走る姿は変わっていませんでした。

16:11発のIC732は2階建ての客車でした。車両の2階部分にある食堂車に乗車してビールで喉を潤します。丘陵地帯を右に左にカーブしながら進み、チューリッヒ空港駅を経由してZurich HBに17:23に到着しました。

今夜の宿をまだ決めていません。明日は帰

国日なのであまり遠いところに泊まるのは得策ではないのですが、チューリッヒ市内では高いのです。そこで、列車で30分と掛からない、旅の疲れを取るために温泉保養地バーデンに泊まることとしました。ホームの公衆電話からHotel Blrmeへ電話予約。バストイレ付き145CHFとちょっと高い部屋でしたが、市内の同程度のホテルよりは安いので納得することにしました。

そして、せっかくの温泉なので、温泉センターに行くことにしました。しかし、こちらの温泉はプールなので水着が必要です。駅近くの生協で水着を購入して18:36発EC162に乗車しました。ウイーン発バーゼル行きの国際特急ですが、オーストリア国鉄車両のコンパートメント車両です。しかし、夕方の通勤時間に重なり、車内は混雑しています。別に特急料金が必要ではありませんから、早い列車を選んだらこの列車だったという普段着の客が大半でした。20分も掛からずに目的地のBadenに18:52に到着します。

ホテルは駅から15分ほど歩いた川沿いがあり、結構クラシックな建物でしたが、内部はきれいで申し分ありません。早速ホテルの向かいにある温泉センターへ。

入り口で入場料とロッカーのカギのデポジットを払います。更衣室で水着に着替えてプールへ。お湯は透明で少し硫黄臭があります。本当に温泉プールくらいの温度でお風呂としては少しぬるいです。しかし、長く浸かっていると体がぽかぽかしてきました。出るときに係員の人が暖めてあるバスタオルを巻いてくれるのですが、それがなかなか気持ちよかつ



IR2059 Badenにて



IC732 St.Gallenにて

たのです。

夕食は近くのスペイン料理レストランでポークソテーをいただく。意外とおいしかったのは想定外でした。部屋に戻って分かったのですが、ホテル1階に共同バスルームがあり、（共同浴場ではありません。）こちらのお湯は独自源泉のようです。これなら水着を買う必要はありませんでした。

2005年5月7日(土)雨

今日は帰国日なので、おみやげを買いにチューリッヒ市内を散策します。まずは空港へチェックインしに行きます。今日はもうスイスパスが切れてしまったので、片道乗車券を窓口で買います。

Baden8:30発車のIR2059はバーゼルから来た急行で、なんとチューリッヒ中央駅へ寄らずに直接空港駅へ行ってしまいう列車でした。経路に期待したのですが、中央駅手前の短絡線を通ることが判明し、ちょっと残念。8:56に空港駅へ到着し、先にチェックインをして座席を確保してしまいます。

荷物をコインロッカーに預けてから、Sバーンでチューリッヒ市内へ戻ってお土産を物色します。13:05発のLX168便でスイスを離れて東京に向かいました。

2005年5月8日(日)晴

成田空港に7:55に到着。8:35発モーニングライナーに乗車して帰宅しました。

<おわり>